

令和 3 年 6 月 18 日現在

機関番号：34604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01099

研究課題名(和文) 理学療法士の発達を促す経験学習支援方法の開発

研究課題名(英文) The development of the support method for experiential learning to promote professional expertise of physical therapists

研究代表者

池田 耕二 (Ikeda, Koji)

奈良学園大学・保健医療学部・教授

研究者番号：70709873

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、理学療法士(以下、PT)の経験学習プロセスにある仕事の信念と成長(発達)を促す経験の一部を解明した。経験学習を促進させるPTの仕事の信念は、a) 人間関係の構築、b) PTのプライド・熱意・幅広い実践、c) 治療成果・社会還元の3つであった。また、PTの成長(発達)を促す経験は、1) 担当患者の理学療法・関係性に苦悩した経験、2) 理学療法における成功体験、3) 先輩・指導者の治療技術に差を感じた経験、4) 学会発表・参加経験、5) 重度患者に対する理学療法経験(多職種連携)、等であった。現場教育ではこれらを理解した指導が必要と考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、我が国のPTは急増したため現場のPTの質の担保が懸念されている。そのため、現場は人材育成が課題であり、PTに対する経験学習支援が重要視されている。しかし、PTの経験学習プロセスは解明されておらず、支援方法も開発されていない。

本研究では、経験学習能力を高め、学習を継続させるPTの3つの仕事の信念とPTの成長(発達)を促す経験の一部を明らかにしたが、これにより現場では3つの信念を育みながら、成長(発達)を促す経験を効率よく提供することができれば経験学習支援が可能になると考えることができる。よって、PTの質の担保に貢献できると考えられる。ここに本研究成果の学術的、社会的意義がある

研究成果の概要(英文)：This study examined work beliefs and experiences that promote the experiential learning process of physical therapists (PT). There were three PT work beliefs found to promote experiential learning: a) building relationships, b) PT pride, enthusiasm, and broad practice, and c) therapeutic outcomes and giving back to society. In addition, the experiences that promoted PT growth (development) were principally: 1) struggling with physical therapy and the relationship with the patient in charge, 2) success in physical therapy, 3) feeling the difference in the treatment skills of seniors and supervisors, 4) presenting and participating in conferences, and 5) physical therapy for severe patients (multidisciplinary cooperation). We conclude that guidance that takes these factors into consideration is necessary in on-site education.

研究分野：理学療法教育

キーワード：理学療法教育 経験学習 人材育成

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、超高齢化に伴う社会ニーズの高まりにより、我が国の理学療法士（以下、PT）は約 14 万人に達していた。しかし、その一方で理学療法サービスの質の低下が懸念されていた。そのため PT の各養成校はカリキュラムや理学療法臨床実習教育の方法等を見直し、日本 PT 協会は新人・生涯教育を制度化することで、現場の理学療法サービスの質の低下を防いできた。ここでいう質とは知識や技術だけを指すのではない。医療人としてのプロフェッショナリズムや人間的な魅力等も含めた理学療法士が発揮する総合力を指している。しかし、講習会や研修会参加型教育だけでは総合力を育成することは難しい。そのため現場における経験学習が重要視されるようになってきた。池田（2013）は、理学療法士の発達は、従来からある価値観等を大きく塗り替え、理学療法分野の発展に大きく寄与する可能性を持つことを指摘し、発達を促す経験学習支援の必要性を説いており、有効な経験学習支援が可能になれば業務を通し理学療法士の発達を促すことができると期待できる。

経験学習については、松尾（2006, 2018）がビジネス分野や医師、看護師分野の経験学習プロセスの解明を進め、プロフェッショナルな人材育成には適切な仕事に対する信念や良質な経験、すなわち成長（発達）を促す経験が必要としている。また、それらには領域固有性があることも指摘している。超高齢社会では慢性疾患や重複障害等が多くなっていくと予想されており、PT の活躍や発展が期待されている。また終末期医療においても PT の活躍が期待され、総合力がより必要とされている。そのため PT の成長や発達を促す支援はさらに重要性を増していくものと考えられる。

しかしながら、研究開始当初は、PT の経験学習プロセスは解明されておらず、経験学習支援方法の開発もなされていなかった（池田 2019）。

2. 研究の目的

熟達 PT の経験学習プロセスを解明し、それをもとに PT の成長（発達）を促す経験学習支援方法を開発することである。分析の枠組みは、松尾（2006, 2018）の経験学習プロセス解明の枠組みに従った。次に、PT の経験学習プロセスの解明には、経験学習を促進させる仕事の信念と成長を促す経験の解明が必要と考えた（池田 2019）。

そこで研究 では、経験学習プロセスにある理学療法士の仕事の信念を明らかにし、研究 では、経験学習プロセスにある PT の成長を促す経験を明らかにした。

3. 研究の方法

本研究では、熟達 PT の定義を臨床歴 10 年以上、臨床実習指導や非常勤講師等の教育歴、学位取得や学会発表等の研究歴を有するものとした。

対象は熟達 PT 43 名（男 31 名、女 12 名、平均年齢 36.8 ± 4.5 歳、平均臨床経験年数 14.0 ± 4.4 年）であった。

研究 はアンケート調査とし、仕事をする上で大切にしている思いや価値観等を記載してもらった。分析では、記載内容をオープンコーディング法によってコード化し、それらを類似性から集約し、カテゴリー化を行った。そして、信念カテゴリーを変数に、熟達 PT を個体にしてクラスター分析を行い、信念カテゴリーを 3 群に分類し、その特徴から名称を付け、3 つの PT の仕事の信念を明らかにした。

研究 はアンケート調査とし、これまでのキャリアで印象に残った経験（時期と内容）、すなわち成長を促す経験を 5 つ記載してもらった。分析では、記載内容をオープンコーディング法によってコード化し、それらを類似性から集約し、カテゴリー化を行った。そして成長を促す経験カテゴリーをコード数の多い順に並べ、上位 15 カテゴリーを明らかにした。

またキャリアにおける時期別（初期 1～3 年、中期 4～10 年、後期 11 年以降）においても、それぞれ上位 3 カテゴリーを明らかにした。

4. 研究成果

研究 (PTの仕事の信念): PTの3つの仕事の信念カテゴリーの名称は, A)人間関係の構築, B)PTのプライド, 責任感, 熱意と幅広い実践, C)治療成果, 社会還元であった(図1)。

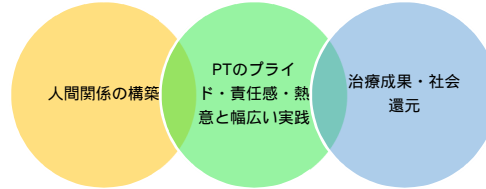


図1 PTの3つの仕事の信念

研究 (成長を促す経験と時期): 図2にコード数の多い順にPTの成長を促す経験を示した。棒グラウの色の違いは各時期を意味する。以下に, コード数の多い順にカテゴリーとコード数を示す。担当患者の理学療法・関係性に苦悩した経験, 理学療法における成功体験 18, 先輩・指導者の治療技術に差を感じた経験 14, 学会発表・参加経験 13, 重度患者に対する理学療法経験(多職種連携) 12, 先輩からアドバイスをもらった経験 11, 予期できぬ否定的な経験 11, 多職種介入経験による苦悩と学び 10, 講習会・研修会参加経験 9, 職場の適応に苦悩した経験 8, 管理経験 7, 新たな出会い・別れ 7, 講師・シンポジスト経験 5, 仕事に対する姿勢や向き合い方を教えてもらった経験 5, 担当患者の喪失体験 5であった。

次に, 時期別の上位3カテゴリーとコード数を順に示す。初期は, 担当患者の理学療法・関係性に苦悩した経験 10, 先輩・指導者の治療技術に差を感じた経験 9, 先輩からアドバイスをもらった経験 8, 中期は, 理学療法における成功体験 9, 多職種介入経験による苦悩と学び 7, 職場の適応に苦悩した経験 6, 後期は, 管理経験 5, 理学療法における成功体験 4, 担当患者の理学療法・関係性に苦悩した経験 3であった。

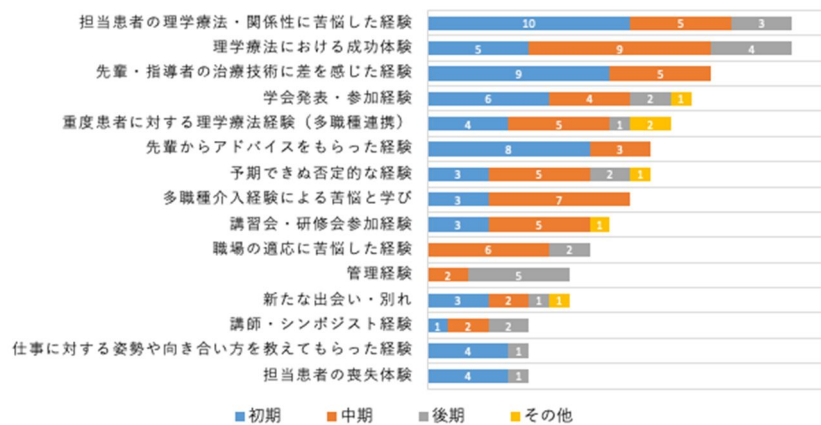


図2 成長を促す経験と各時期における比較

以上, 本研究ではPTの経験学習プロセスの一部を明らかにすることができた。また, 本結果からは, PTの仕事の信念を育み, 成長を促す経験を意識した現場指導や教育が, PTの経験学習支援につながっていくと考えられた。

文献

- 1) 池田耕二(2013) 理学療法士発達論に基づいた教育方法の開発に向けて .PT ジャーナル 47(5):423 .
- 2) 松尾睦(2006) 経験からの学習 . 同文館出版 .
- 3) 松尾睦・編(2018) 医療プロフェッショナルの経験学習 . 同文館出版 .
- 4) 池田耕二, 他(2019) 理学療法士の経験学習プロセスの解明に向けて-経験学習研究における理論的枠組みと課題-. 大阪行岡医療大学紀要 6:23 - 33

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 池田耕二、田坂厚志、粕淵賢志、城野靖朋、松田淳子	4. 巻 6
2. 論文標題 理学療法士の経験学習プロセスの解明に向けて 経験学習研究における理論的枠組みと課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪行岡医療大学紀要	6. 最初と最後の頁 23 - 33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 池田耕二、田坂厚志、粕淵賢志、城野靖朋、松田淳子
2. 発表標題 熟達理学療法士の経験学習プロセスにある成長を促す経験とは？
3. 学会等名 第55回日本理学療法学会 第9回日本理学療法教育学会 第3回日本理学療法士学会・管理部門研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池田 耕二 , 田坂厚志 , 粕淵賢志 , 城野靖朋 , 松田淳子
2. 発表標題 熟達理学療法士の経験学習能力を支える 仕事に対する信念とは？(優秀賞)
3. 学会等名 第54回日本理学療法学会・第8回日本理学療法教育学会・第2回理学療法管理部門研究会（名古屋）
4. 発表年 2019年～2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田坂 厚志 (Tasaka Atsushi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	柏渕 賢志 (Kasubuchi Kenji)		
研究協力者	城野 靖朋 (Jono Yasutomo)		
研究協力者	松田 淳子 (Matsuda Junko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関